

○大槌町景観形成ガイドラインの位置づけ

■大槌町景観形成ガイドライン策定の目的

大槌町では新しい復興まちづくりにあたって「風景の再生」を目指しています。町民が地域に誇りと愛着をもつために、また多くの来訪者が魅力を感じられるように、周辺の自然と調和したまち並みをつくり、美しい風景を再生していくことが町の将来にとって大切なことと考えています。

この景観形成ガイドラインは、行政はもとより、町民のみなさんが、まちづくりについて話し合いながら、美しい風景の再生を行うことができるように、その指針を示すものです。

■基本理念

海に見えるつい散歩したくなるこだわりのある「美しいまち」
～おもてなしの気持ちをこめて、人にやさしく暖かなまちをつくりましょう～

■基本方針

- ①おもてなしの気持ちをこめて、人にやさしく暖かなまちをつくりましょう
- ②地区住民の日常的な居場所となる場所や建物のしつらえを大切にしましょう
- ③大槌町の特徴や文化を表している景観を保全・復元しましょう
- ④大槌町の海、川、山と調和した建物を建てましょう
- ⑤通りに開かれたまち並みづくりを目指しましょう
- ⑥昔の記憶をとどめながら、安心安全な町をつくりましょう
- ⑦住民どうしが話しあい、協力しあって魅力的なまちをつくりましょう

■取り組みの経緯

町では震災後、被災した地区ごとに復興協議会を行い「大槌町復興計画」を策定しました。この中で、まちづくりの基本理念を「海に見えるつい散歩したくなるこだわりのある『美しいまち』」とし、風景の再生に取り組むこととしています。

町では平成 25 年度に大槌デザイン会議を立ち上げ、町方、小枕・仲松、沢山、安渡、赤浜、吉里吉里、浪板の 7 地区について、約 1 年をかけて町民の皆さんのご意見を伺い、復興まちづくりにおける、主に公共空間のデザインの指針となる「大槌デザインノート」をとりまとめました。

また、「まちづくりワークショップ」や「地域復興協議会」においても、まちづくりに関する多くのご意見をいただいております。

これらを受けて、このたび「大槌町景観形成ガイドライン」を策定するものです。

■関連計画

上位計画である「大槌町復興計画」及び「大槌町都市計画マスタープラン」を踏まえた計画を策定します。

また、「大槌デザインノート」を景観形成ガイドラインに最も関わりの深い指針として位置づけます。

なお、震災前より岩手県は景観形成に取り組んできましたが、震災後に国、県などが復興まちづくりに関する景観再生の手引きを示しています。これらも参考にしながら景観形成ガイドラインを策定します。

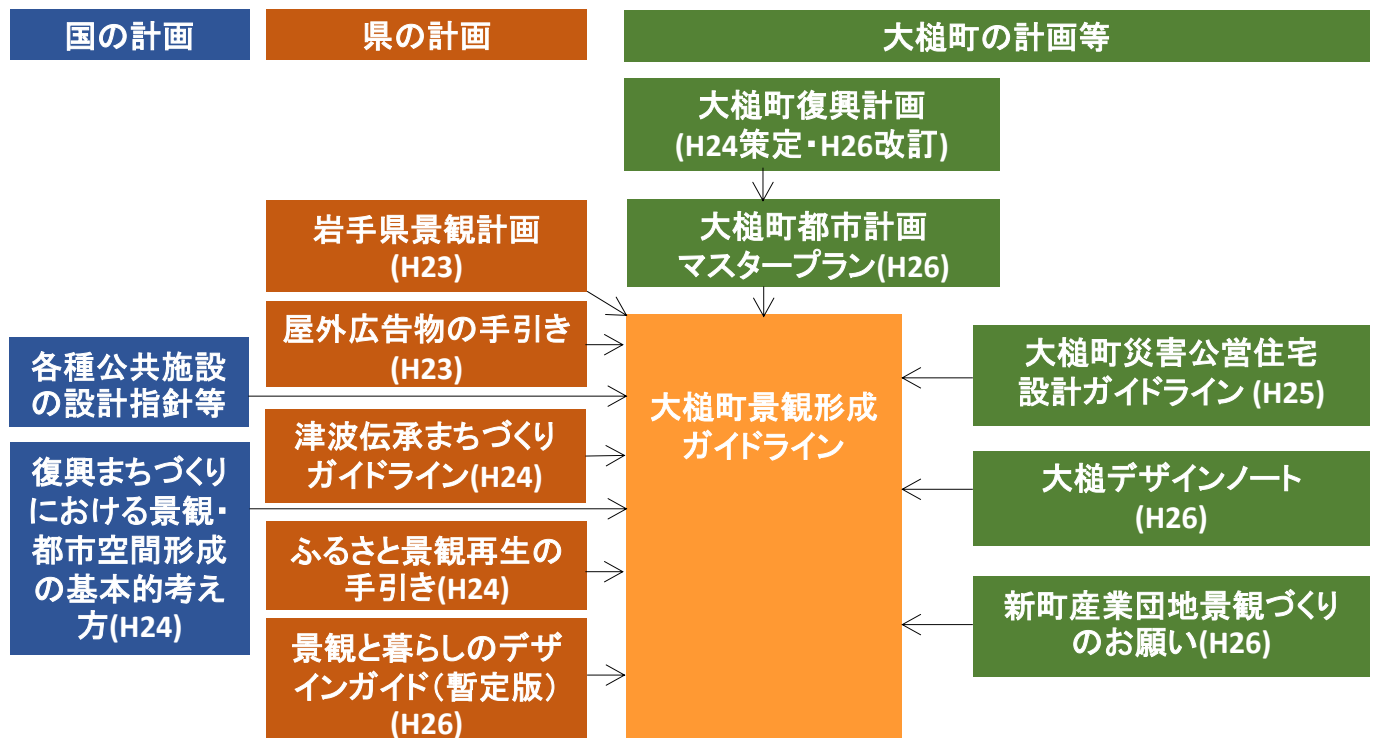


図 大槌町景観形成ガイドラインの上位計画・関連計画との関係

■構成

「海に見えるつい散歩したくなるこだわりのある『美しいまち』」の実現に向けて、以下のように3つの視点から景観形成の指針を策定します。

1 民間の住宅・商店等に関する景観形成指針の策定

2 公共施設・公共空間に関する景観形成指針の策定

3 景観に配慮すべき重点地区ごとの公共・民間の景観形成指針の策定

■重点地区

東日本大震災による津波によって被災した町方地区、沢山地区、小枕・伸松地区、安渡地区、赤浜地区、吉里吉里地区、浪板地区の7地区を重点地区とします。